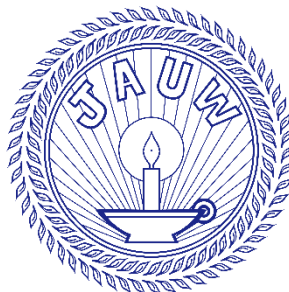


(一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り

「けやき」No. 24

令和4年12月10日発行



【最近の活動】～エル・パーク仙台～

- ・ 6月22日(水) / ★2022年度第1回交流会 (U.K会員)
- ・ 6月29日(水) / 第3回役員会
- ・ 8月3日(水) / 第4回役員会
- ・ 9月7日(水) / 第5回役員会
- ・ 9月21日(水) / ★2022年度公開講演会 (中屋紀子会員) ※参加費500円
- ・ 10月5日(水) / 第6回役員会
- ・ 11月2日(水) / ★第55回宮城県女性大会
- ・ 11月16日(水) / ★ドレスデン国立古典絵画所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展鑑賞会
- ・ 11月30日(水) / 第7回役員会

【今後の予定】

- ・ 12月21日(水) / 第8回役員会
- ・ 2023年(令和5年)2月下旬予定 / 「新年会」※会場未定

【新規会員ご紹介】～W.H会員より～

東北大学ニュートリノ科学研究センターのW.Hと申します。

仙台支部会員として大学女性協会に参加させていただくことになりました。仙台市出身で、大学で仙台を出た以外は、荒町小学校、五橋中学校、第二女子校(現二華中高)、東北大学とずっと仙台におります。5歳の男の子とアメリカ人の夫と共に慌ただしく日々を過ごしております。

素粒子ニュートリノの観測実験を専門とし、東北大学が主導している岐阜県神岡鉱山内で行われているカムランド実験に参加しています。近年は地球の熱を司る放射性物質の崩壊時に発生するニュートリノ観測の発展を目指し、地球科学や海洋工学といった異分野と連携した研究を行なっております。

日本ではまだまだ女性研究者の少ない研究分野ではありますが、自分の経験や研究成果の発信で、微力ながら大学女性協会の活動や後進育成に貢献できればと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

【 2022 年度 第 1 回交流会 】

◆ K. K

◆ 2022 年 6 月 22 日（水） / 『私と藤崎』 話題提供: U. K 会員

コロナ禍前に企画されていた U. K 会員による「私と藤崎」のお話しがようやく開催されました。

U. K 会員は、皆様ご存知の通りフジサキデパートのお嬢様で、2009 年にご逝去された前会員の F. C 様の愛娘でいらっしゃるのです、お話しを伺うのが本当に楽しみでした。

私事になりますが、F. C 様とのご縁は趣味のコースで一緒にの事から親しくさせて頂き、JAUW にも誘って頂きました。又、フジサキデパートは、私が大町五丁目（現在一番町三丁目）の大武写真館に嫁いだ昭和 39 年の目のまわるような忙しさの中で、一ヶ所で何でも揃うデパートが町内にある事は、どれ程救いになったかわかりません。

今回 U. K 様は 2019 年に創業 200 周年を迎えられた藤崎の歴史についてお話しして下さいました。

初代より世襲名の三郎助を代々受継がれており、1819 年（文政 2）初代三郎助、1849 年（嘉永 2）二代目、そして現在の藤崎百貨店の出発点となるのが三代目で、1912 年（明治 25）四代目が、国際的な視野を持って近代デパートの変革を図り、仙台経済界のリーダーとしても重きをなすようになりました。昭和初期には五代目三郎助がほぼ百貨全般を扱うようになり、近代的百貨店の基礎を築かれました。この時代は戦争があり誰もが苦しい日常のなか、藤崎は常に時代を先取りパイオニアの役割を果たして来られました。又文化芸術その他多方面に於いても造詣が深く、特に地元の発展向上の為に貢献されました。この五代目が F. C 様のご主人であり、U. K 様のお父様でいらっしゃいます。現在六代目三郎助を襲名されたのは U. K 様のお兄様で、更に時代に即した経営を実践されております。

特に忘れられないのは 2011 年（平成 23）3 月 11 日に起きた東日本大震災時の対応でした。電気も水道もガスも停止したなか、藤崎は当座をしのぐ食料品を入口の前で販売し大勢の人達が買い求めました。これも地元百貨店としての責任ある行動である事に敬服致します。あれから 11 年が過ぎた現在も様々な震災復興支援の為に努力をされていられる事に心より敬意を表します。

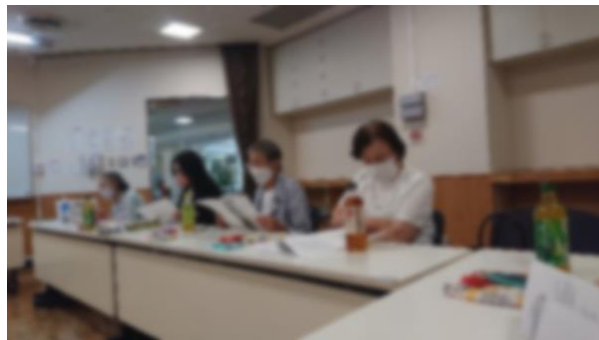
U. K さんのお話しの中に、子供さんの頃屋上の遊園地で遊ばれた事や、ソフトクリームの美味しかった懐かしいお話しが盛り込まれ、聞いている私の胸にも 50 年以上前、子育て真っ最中に無くてはならないオアシスだった事が甦って参りました。フジサキは私の人生に於いて私を助けてくれ、育ててくれ、愛してくれた恩人のような存在である事を改めて気づかされ、感謝の思いでおります。有難うございました。尚、細事につきましては当日の文献を参考にさせて頂きました。



※話題提供/U. K 会員



※司会/A. C会員（右）



※本文/K. K会員（中央）



※撮影/A. C会員



※謝礼贈呈/A. F会員（中央）

【 2022 年度 公開講演会 】

◆ H. M

◆ 2022 年 9 月 21 日（水） / 『北欧のミステリーから見るジェンダーの問題』 講師・中屋紀子会員

「北欧のミステリー小説から見るジェンダーの問題」と題した支部会員の中屋紀子氏の公開講演会に参加致しました。私は北欧のミステリーがどのようなものなのか、全く知らなかったので大変興味がありました。私が持っている北欧のイメージは、機能性のあるインテリアやおしゃれなデザインの雑貨が思い浮かびます。そしてなによりジェンダーについては非常に先進的な地域であると思っていました。しかし中屋さんの小説を通した北欧の現状を伺っていくうちに、私たちの国、日本とあまり変わらないことが分かり、なあんだ同じか、と少しがっかりしました。

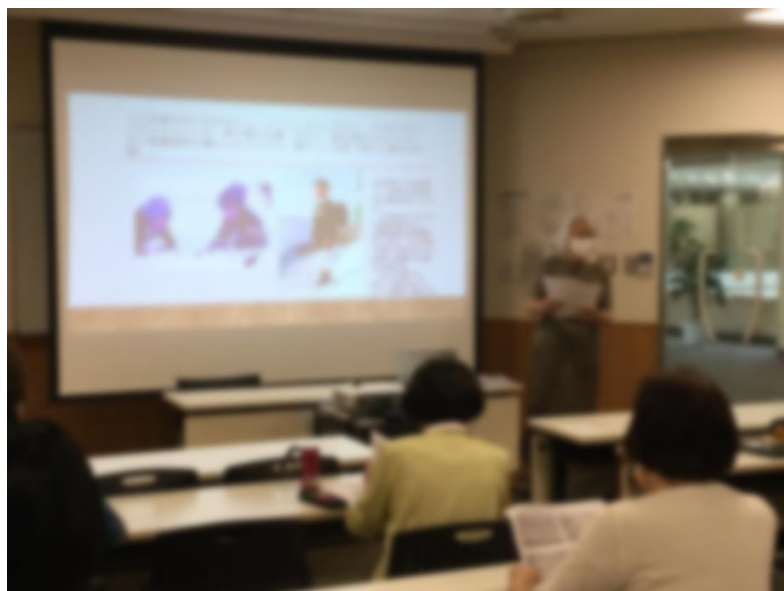
いくつか紹介された作品と作家では、例えばノルウェーの女性作家アンネ・ホルトは検察官、ニュースキャスター、弁護士、法務大臣という経歴の持ち主です。その多彩な経験から、北欧にもあるジェンダー問題をミステリー小説を通して世の中に提起していたと思われます。そして講演会当日に配布された資料からさえ、何か北欧の厳しい寒さを伴った重苦しいような雰囲気伝わってきました。そこから北欧ならではの独特の世界観を感じる事が出来ました。

ところで最近の日本の状況を見ますと私の主観ではありますが、若い人たちの年代層は以前と比べますと、男女の役割の区別については随分と改善されたように見受けられます。子どもが生まれればもちろん父親も面倒を見ますし、食事の準備や片付けも自然にするようです。ただみんながみんなそのようにする訳ではなく、高校生でも“女性は家にいて家事をするものだ”とはっきり言う人もいます。多分、

そのような考えを持った両親に育てられれば知らずのうちに、疑う余地もなく概念として持ってしまうのだと思います。何割かのシニア世代の男性は、世の中の考えの変化に対応できず、ジェンダーについて昔ながらの考えでいる方もいますが、しかし徐々に若い世代からそれは薄まっていつているのではないかと感じています。北欧と日本では歴史や地理的条件などが違いますから、一概にジェンダー問題と一括りに比較することはできませんが、人として、人間としての尊重や価値の視点は同じだと思います。働くという事や結婚観など、一度しかない人生を自分のものとしてどのように生きていくのかは非常に重要な点です。しかし北欧のミステリー小説にもあるように、これらの多くは社会問題として存在していると思いますから政治の力も大切です。

数年前にノルウェーの大使館に所要があり参りました。その時に感じたことは男女に関係なく、自分の意見をはっきり言う事です。そしてそれを意見の違いがあってもまずは一旦聞き入れる態度があることです。安心して意見が言える環境があります。改革はそのようなところから始まるのだと思います。

中屋さん、その事をあらためて考える機会を頂きありがとうございました。



※講師/中屋会員(宮城教育大学名誉教授)



※本文/H.M会員(左よりお二人目)

【 2022 年度 美術鑑賞会 】

◆ A. C

◆ 2022 年 11 月 16 日（水） 『消されたキューピッドの謎』
～ドレスデン国立古典絵画館所蔵【フェルメールと 17 世紀オランダ絵画展】～
於）宮城県美術館 / 参加者 17 名（会員 9 名、一般 8 名）

11 月 16 日（水）、会員の皆様と学芸員の小檜山祐幹さんのお話しをうかがい、ヨーロッパの名画を鑑賞する機会に恵まれました。前回の美術館訪問は 2019 年 10 月のストラスブール展でしたから、実に 3 年ぶりの観賞会です。

今回の目玉は何といてもオランダ黄金期の画家フェルメール（1632-1675）の【窓辺で手紙を読む女】です。近年の修復作業によって、右上の茶色い壁の部分からキューピッドの絵が出現したということが大きな話題となっていました。実は、壁の下に何か描かれていることは、1979 年の X 線写真で分かっていたそうです。当時からキューピッドなのではないかと言われていたものの、フェルメール自身が試行錯誤の末に塗りつぶしたのだろうと多くの専門家が考えていました。しかし 2017 年に壁の部分はフェルメールが亡くなって何年も経ってから塗られたことが明らかとなり、絵の具を慎重に削り取る作業を重ねてキューピッドが姿を現すことになったのです。修復によって黄色く変色した古いニスを取り除かれ、全体的に色がクリアになった【窓辺で手紙を読む女】。絵の右上には「画中画」として、嘘の象徴である仮面を踏みつけるキューピッドの絵が飾られています。絵の中の女性が読む手紙はおそらく恋文なのでしょう。この構図は「誠実な愛は嘘やまがい事に打ち勝つ」という意味を表していると解釈されているそうです。

それにしても、なぜキューピッドは塗りつぶされてしまったのでしょうか。いくつかの説がありますが、絵を売りやすくするためにレンブラントの作品に見せかけようとしたのではないかという説が有力だそうです。フェルメールは画家のギルドの理事に選出されるほど生前は高い評価を受けていましたが、寡作で現存する作品は 35 点ほどです。また、絵の主題や画風が時代に合わなくなったこともあり、18 世紀に入ると彼の名は次第に忘れられていったようです。一方、レンブラント作品は人気があったため、高値で取引するために作者を偽装したのではないかとされているのです。真相は誰にも分かりませんが、人間の欲のために貴重なオリジナルが毀損した痛ましい実例なのかもしれません。

今回の絵画展ではフェルメールの【窓辺で手紙を読む女】のほか、18 世紀にザクセン選帝侯が美術品の目利きを使って集めた、ヨーロッパ有数のオランダ絵画のコレクションが展示されていました。講師の小檜山さんはそれらを「風俗画」「肖像画」「風景画」「風俗・宗教画」「静物画」に分類し、それぞれの見どころを教えてくださいました。絵に描かれた鳥やウサギが暗示する性的な意味合い、小さなストーリーやファッション、細密すぎる静物画の描写など、これまでに何度も目にしたことがある有名な絵も新たな視点から観賞することでより深く味わうことができ、素晴らしい秋の一日となりました。

ありがとうございました。



親近感ある作品分野別に

「窓辺で手紙を読む女」は、風俗画や風景画、静物画など多彩な分野が生まれた。フェルメール初期の傑作とされる。室内にたずむ女性の表情、窓から差し込む柔らかな光、厳密な遠近法と幾何学的な構成。フェルメールの特徴が凝縮された一枚と言えるからた。

背景には、フェルメールを含むオランダ絵画の隆盛がある。海洋貿易による経済力を武器に、絶対王政のスペインから独立したオランダ。勃興する市民階級のニーズに応

宮城県美術館・来月8日開幕 黄金時代の至宝72点

修復によりキュービッドの面中画が姿を現したヨハネス・フェルメールの「窓辺で手紙を読む女」をはじめ、オランダ絵画の至宝72点をそつとドレスデン国立古美術研究所蔵フェルメールと17世紀オランダ絵画展」(宮城県美術館、河

「窓辺で手紙を読む女」は1979年のエックス線調査で、女性の背後の壁に面中画が隠れていることが分り、フェルメール自身が塗り直したと考えられていた。2017年からの絵画修復が完了し、ドイツ・ドレスデン国立古美術研究所の果、汚れがたまった層の上から上塗りされていることが判明。フェルメールの死後、別人が上塗りしたことがはっきりした。

本展は河北新報創刊125周年を記念して開催される。このほか、巨匠レンブラント・ファン・レインが愛妻を描いた「若きサスキアを題材にしたヤン・ステアの肖像」、旧約聖書の物語「ハガルの追放」など、見逃せない名品が展示される。

※河北新報/2022年(令和4年)9月28日(水)朝刊掲載



※宮城県美術館



※2022年10月8日～11月27日開催

◆.....◆

【ひとこと】

今年度第1回交流会のお話をして下さったU. K会員、レポートを書いてくださったK. K会員、今年度公開講演会で講師を務めて下さった中屋会員、レポートを書いてくださったH. M会員、3年ぶりに開催する事が出来ました美術鑑賞会のレポートを書いてくださったA. C会員、各会場予約や準備・広報等をして下さったA. F会員、そして周囲の方々にお声をかけてくださった会員の皆様、有難うございました。どうぞ良い年をお迎え下さいませ。

◆.....◆